

【原著】

第16回日本ジャンボリー（第30回アジア太平洋地域スカウトジャンボリー）における 事業成果把握に向けた参加者に及ぼす効果

—国際的な集団野外生活が青少年に与える影響—

Achievement Research on the Effect of the 16th Nippon Jamboree

(30th Asia-Pacific Regional Scout Jamboree) on its Participant

—The Impact of the Large-Scale International Outdoor Group Activity on the Youth—

中野 充 NAKANO Makoto

新潟青陵大学、公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

齋藤 雄 SAITO Yu

国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター

キーワード

グローバル人材、生きる力、リーダーシップ、集団野外生活、ノンフォーマル教育、テキストマイニング

要旨

4年に1度開催されるボーイスカウトの大会であるジャンボリーでは、様々な国の青少年が、言葉は分からなくても、共に行う体験を通じて自然にうち解けて交流を深め、互いの文化を学び合う場が形成される。「ジャンボリーに参加すれば国際性が高まる」、「ジャンボリーは参加者に良い影響を与える」など、肯定的な側面が経験値によって良く取り上げられてきたが、参加者に対する事業成果を測定する客観的指標、及び教育効果については、指導者の主観的な経験に頼らざるを得なかった。

こうした現状を踏まえ、本研究では「文部科学省が求めるグローバル人材の要素」、「青少年の生きる力」、「社会人としての必要なリーダーシップ」などに関する調査を実施することにより、第16回日本ジャンボリー（以下、16NJ）における事業成果を検証した。

I. はじめに

中央教育審議会においては、2013年（平成25年）1月に「今後の青少年の体験活動の推進について」（答申）⁽¹⁾を公表した。答申の中で、公益財団法人ボーイスカウト日本連盟がホストする「第23回世界スカウトジャンボリー（2015年夏開催予定）」について、グローバルな人材を育てる上で絶好な機会だとして、政府として積極的に支援する必要があると指摘している。

世界スカウトジャンボリーは現在までに22回を数え全世界のボーイスカウトの最大行事である。これまで日本からも多くのスカウトが派遣されている。この事業は、国際的、大規模、集団野外生活、といった教育的意義のある要素が含まれているにも関わらず、こ

れまで教育効果の検証や事業成果を調査されてこなかった。しかし、その教育効果や事業成果は関係者や参加者の一部で享受するだけでは、その事業成果に限られる。2011年（平成23年）にスウェーデンで開催された第22回大会には日本から約1,000名が参加し、その参加者に対し「生きる力」、「国際理解」等の変容を調査することで、大会が参加者に及ぼす効果を測定し、世の中に提示することにより事業評価の意義について検討があった⁽²⁾。同時に世界中からもこの効果についての関心が寄せられている。

現在、ボーイスカウトの世界組織である世界スカウト機構には162の国と地域が加盟しており、3,600万人の会員を擁する世界最大の青少年団体である。この組織においてもジャンボリーの教育効果・事業成果については話題には上るが、測定方法は確立されておらず、第23回大会での確立が望まれている。従って、本研究は、その基礎調査であると同時にジャンボリーにおける事業評価の新たな道を切り開くものであると考える。著者らは、体験活動を推進しようとしている我が国において、このような事業成果を把握できることは、家庭や地域の教育力の重要性を評価できる機会になると考え、第23回世界スカウトジャンボリーのプレ大会である16NJ（第30回アジア太平洋地域スカウトジャンボリー）において、事業の趣旨を踏まえ、「青少年の生きる力」、「文部科学省が求めるグローバル人材の要素」、「社会人としての必要なリーダーシップ」などに関する調査を実施することにより、16NJの参加者の変容を明らかにした。

Ⅱ. 調査の概要

1. 研究対象

本研究対象は、16NJに参加する国内参加者（小学校6年生以上～高校3年生以下）2,160名、及び外国参加者（14歳以上18歳以下）100名である。国内参加者については、外国参加者が配属されるアルマジロサブキャンプ、ベアサブキャンプの参加者を対象とした。

2. データの収集方法

各県の引率代表者が集う派遣団長会議（2013年6月16日）において、本研究の目的と方法を説明し、事業の事前事後において質問紙を用いた調査を行った。データの収集期間は、事前が2013年7月30日、事後が2013年8月9日である。

3. 調査用紙

本研究では、文部科学省がまとめた、「これから求められるグローバル人材」についての要素Ⅰ～Ⅲを踏まえ、独立行政法人国立青少年教育振興機構が作成した質問項目（①文部科学省が求める「グローバル人材」の要素（29項目）、「生きる力」を測定するために、独立行政法人国立青少年教育振興機構が作成した「IKR 評価用紙（簡易版）」（②「生きる力」の要素（28項目））、国立妙高青少年自然の家が作成したリーダーが集団に果たす2つの働き「PM理論（三隅、1978）」を参考にした課題達成機能（Performance）行動と集団維持機能（Maintenance）行動を問う質問項目である（③「リーダーシップ」の要素（18項目））、自然のすばらしさをどの程度認知しているかについての質問項目、及び共存することの大切さについての質問項目（④「自然のすばらしさや共存することの大切さ」の要素（3項目））を加え63項目（項目に一部重複があるため、4つの要素の合計とは異なる）と

した。また、自由記述として事業への期待や得たものについても調査を行った。

4. 倫理的配慮

対象者には、本研究の目的と方法を派遣団長会議を通して、文書で説明し承諾を得た。研究への協力は対象者の自由意思であり、協力の有無によって不利益が生じないことやいつでも協力を取りやめることができることを保障した。

Ⅲ. 事業概要

16NJ は、国内と海外からの参加者が、「ちかいとおきて」と「スカウト教育法」の実践を通じた質の高い活動を展開し、併せてジャンボリーならではのプログラム活動に参加することにより新たな発見や感動を体感し、参加者同士の友情という絆を結び、国際感覚を高揚させ、世界平和を始めとする地球規模の課題について考える機会を提供する等、青少年の自律的成長を促すことを目的に、我が国のスカウト運動最大の教育イベントとして4年を周期に開催されており、本研究の調査対象とした事業は次の通りである。

【名称】第16回日本ジャンボリー／第30回アジア太平洋地域スカウトジャンボリー

【場所】山口市阿知須・きらら浜

【会期】平成25年7月31日（水）～8月8日（木）8泊9日間のキャンプ生活

【テーマ】和 ～ WA : a Spirit of Unity ～

【参加人数】53の国と地域から合計14,340人

Ⅳ. 調査結果

調査対象者のうち、回答に不備が多かった1,195人分を除き、グローバル人材、生きる力、リーダーシップ、自然との関わりについて、事前及び事業後に同じ調査項目を用いて調査を実施した。各項目で「とてもあてはまる」を6点、「まったくあてはまらない」を1点として、それぞれ1点刻みで得点化し、項目ごとに平均値、標準偏差、 t 値、有意確率（両側）を算出し、事業前・後の結果の差を見るため、「対応のあるサンプルの t 検定」で分析をした。なお、統計上、事業初日より平均値の向上に有意な差が認められたものを表内で*で示した。

事業前・事業後の自由記述アンケートについては、テキストマイニングソフト KH Coder⁽³⁾を用いて分析をした。

1. 文部科学省が求める「グローバル人材」の要素（29項目）

(1) 国内参加者（スカウト）に対する調査結果

表1と図1は国内参加者（スカウト）における文部科学省が求める「グローバル人材」の要素（+外向き志向）の変化を示したものである。全般にグローバル人材各項目が有意である点から、グローバル人材育成に貢献している。ただし、「チャレンジ精神」、「協調性・柔軟性」、「責任感・使命感」は16NJ参加以前から高いことから、16NJとしては、「語学力」、「異文化理解」といった交流の実体験の場としての影響が大きく貢献したものと考えられる。

表 1 文部科学省が求める「グローバル人材」の要素（＋外向き志向）の変化

	平均点			t値	p値	有意差
	事業前	事業後	変化			
グローバル人材育成に関する全質問間平均	3.77	3.99	0.22	11.60	0.000	***
要素Ⅰ	3.36	3.73	0.37	17.18	0.000	***
語学力	2.77	3.31	0.54	20.25	0.000	***
コミュニケーション能力	3.96	4.15	0.19	7.53	0.000	***
要素Ⅱ	4.04	4.15	0.11	4.72	0.000	***
主体性・積極性	3.74	3.94	0.20	4.93	0.000	***
チャレンジ精神	4.09	4.20	0.11	3.09	0.002	**
協調性・柔軟性	4.11	4.19	0.08	2.38	0.018	*
責任感・使命感	4.19	4.27	0.08	2.21	0.028	*
要素Ⅲ	3.72	4.01	0.29	9.85	0.000	***
異文化理解	3.48	3.87	0.39	9.65	0.000	***
日本人としてのアイデンティティ	3.95	4.15	0.20	6.57	0.000	***
＋外向き志向	4.07	4.23	0.16	4.28	0.000	***

* 統計的検定を行い、平均値の向上が認められたもの

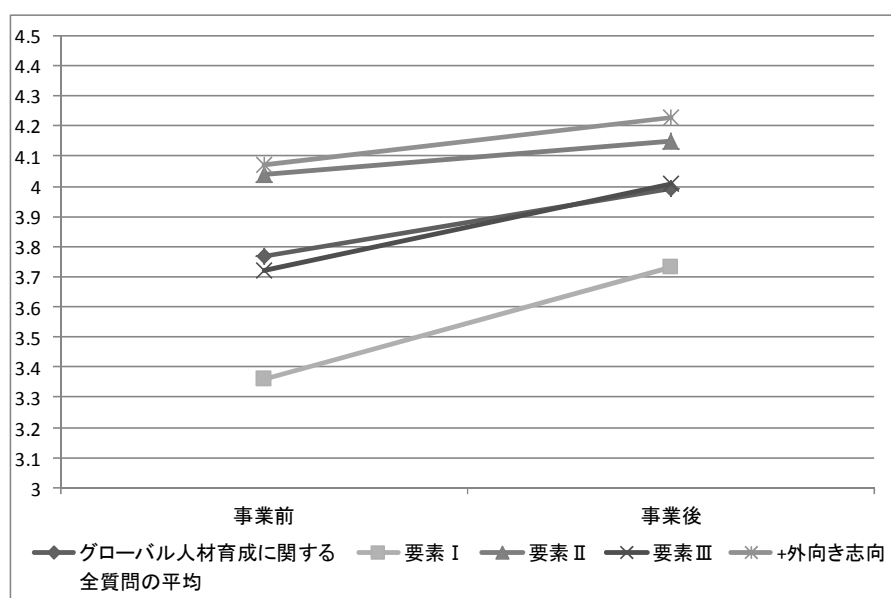


図 1 文部科学省が求める「グローバル人材」の要素（＋外向き志向）の変化

(2) 外国参加者（スカウト）に対する調査結果

表 2 と図 2 は外国参加者（スカウト）における文部科学省が求める「グローバル人材」の要素（＋外向き志向）の変化を示したものである。日本人と同様に、16NJ としては、「語学力」、「コミュニケーション能力」、「異文化理解」といった交流の実体験の場としての影響が大きく貢献したのと考えられる。外国である日本へ入国した人たちとして、コミュニケーション能力に影響したことは言うまでもない。そもそも、海外へ行くという機会を考えると、参加者のモチベーションや能力は、一般外国人よりも高い水準にあることが想定できる点からも、グローバル人材としての得点は高くなっていることは理解できる。また、「責任感・使命感」、「協調性・柔軟性」で差がなかった点については、外国人にとっては、入国後の時間経過があった後に 16NJ がスタートしており、いわば、集団生活が安定した後に調査前データをとる状況になったとも考えられる。

表2 文部科学省が求める「グローバル人材」の要素（＋外向き志向）の変化

	平均点			t値	p値	有意差
	事業前	事業後	変化			
グローバル人材育成に関する 全質問間平均	4.83	5.17	0.34	6.01	0.000	***
要素Ⅰ	4.70	5.03	0.33	4.71	0.000	***
語学力	4.75	5.10	0.35	4.85	0.000	***
コミュニケーション能力	4.69	4.99	0.30	3.25	0.002	**
要素Ⅱ	4.98	5.18	0.20	2.71	0.009	**
主体性・積極性	5.11	5.30	0.19	2.43	0.019	*
チャレンジ精神	4.65	4.99	0.34	3.29	0.002	**
協調性・柔軟性	4.97	5.13	0.16	1.29	0.203	
責任感・使命感	5.20	5.30	0.10	1.17	0.247	
要素Ⅲ	4.87	5.32	0.45	6.86	0.000	***
異文化理解	4.45	5.10	0.65	6.15	0.000	***
～人としてのアイデンティティ	5.27	5.53	0.26	3.63	0.001	**
+外向き志向	5.30	5.41	0.11	1.17	0.247	

* 統計的検定を行い、平均値の向上が認められたもの

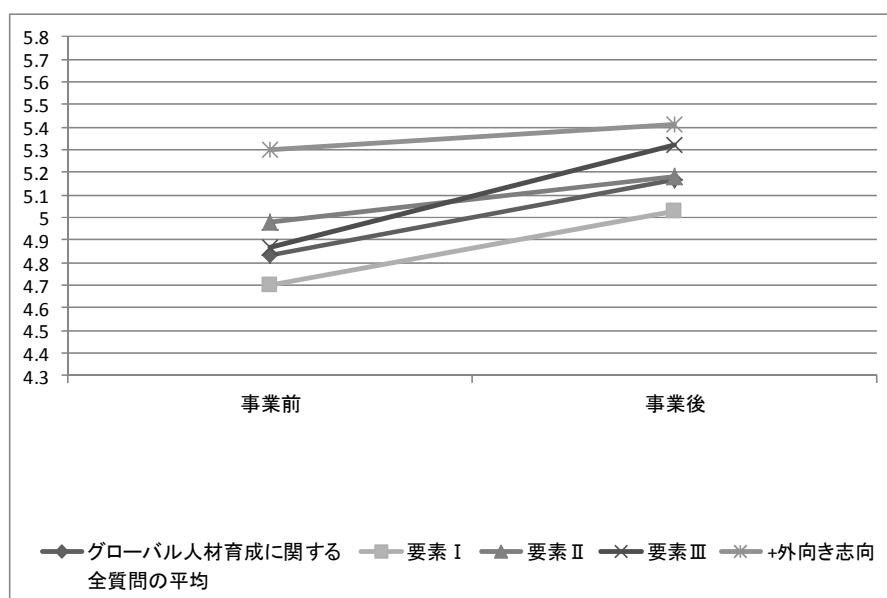


図2 文部科学省が求める「グローバル人材」の要素（＋外向き志向）の変化

2. 「生きる力」の要素（28 項目）

(1) 国内参加者（スカウト）に対する調査結果

表3と図3は「生きる力」の要素の変化を示したものである。生きる力を構成する「心理的社会的能力」、「徳育的能力」、「身体的能力」において点数が伸びている。得点の変化に着目すると、「非依存」、「明朗性」、「視野・判断」、「自然への関心」、「思いやり」、「日常的行動力」、「野外技能」が高い。教育的効果というよりも、キャンプという状況的要因が直結している部分も大きい。すなわち、プログラムとして「生きる力」を促したと仮定するならば、これらを差し引いた残り部分の部分に着目して、検討を進めることで明らかになる可能性もあると考えられる。

表3 「生きる力」の要素の変化

	平均点			t値	p値	有意差
	事業前	事業後	変化			
生きる力に関する 全質問間平均	3.97	4.13	0.16	7.98	0.000	***
心理的社会的能力	3.92	4.05	0.13	6.29	0.000	***
非依存	3.97	4.16	0.19	4.29	0.000	***
積極性	3.86	4.00	0.14	2.91	0.004	**
明朗性	3.71	4.03	0.32	9.27	0.000	***
交友・協調	3.90	3.95	0.05	1.34	0.180	
現実肯定	4.08	4.08	0.00	0.16	0.877	
視野・判断	3.79	3.97	0.18	4.66	0.000	***
適応行動	4.10	4.19	0.09	2.20	0.028	*
徳育的能力	4.18	4.29	0.11	5.17	0.000	***
自己規制	4.10	4.15	0.05	1.66	0.099	
自然への関心	4.38	4.60	0.22	6.95	0.000	***
まじめ勤勉	4.21	4.26	0.05	1.47	0.143	
思いやり	4.03	4.16	0.13	4.18	0.000	***
身体的能力	3.80	4.01	0.21	7.49	0.000	***
日常的行動力	3.54	3.73	0.19	4.01	0.000	***
身体的耐性	3.77	3.87	0.10	2.69	0.007	**
野外技能・生活	4.09	4.44	0.35	10.34	0.000	***

* 統計的検定を行い、平均値の向上が認められたもの

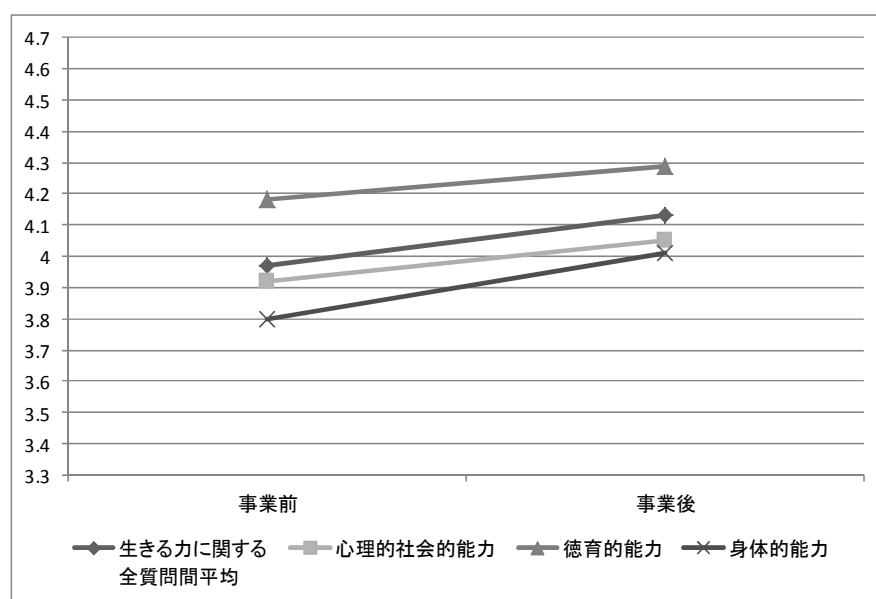


図3 「生きる力」の要素の変化

(2) 外国参加者（スカウト）に対する調査結果

表4と図4は「生きる力」の要素の変化を示したものである。「生きる力」得点が高く身についていることが注目に値する。質問紙が日本人を対象としたものであり、これらが外国人には備わっている要素であり、16NJを通して身についたものは少ないかもしれない。しかし、適応行動や、視野・判断など、異文化の中での交流に参加するにあたって必要と思われる要素で有意差が見られている点は慎重に見る必要があると考えられる。

表4 「生きる力」の要素の変化

	平均点			t値	p値	有意差
	事業前	事業後	変化			
生きる力に関する 全質問間平均	4.71	4.94	0.23	3.14	0.004	**
心理的社会的能力	4.89	5.19	0.30	3.96	0.000	***
非依存	4.61	4.70	0.09	2.21	0.032	*
積極性	5.20	5.33	0.13	1.65	0.104	
明朗性	4.61	4.91	0.30	2.39	0.210	
交友・協調	4.95	5.25	0.30	2.43	0.019	*
現実肯定	5.64	5.63	-0.01	-0.18	0.862	
視野・判断	4.78	5.17	0.39	3.13	0.003	**
適応行動	4.70	5.03	0.33	3.17	0.002	**
徳育的能力	4.92	5.08	0.16	1.82	0.076	
自己規制	4.93	5.13	0.20	1.48	0.144	
自然への関心	4.87	5.01	0.14	1.16	0.249	
まじめ勤勉	5.17	5.28	0.11	1.23	0.224	
思いやり	4.85	4.97	0.12	1.30	0.199	
身体的能力	4.48	4.70	0.22	2.52	0.015	*
日常的行動力	4.43	4.73	0.30	2.75	0.008	**
身体的耐性	4.39	4.60	0.21	1.37	0.177	
野外技能・生活	4.56	4.85	0.29	1.96	0.055	

* 統計的検定を行い、平均値の向上が認められたもの

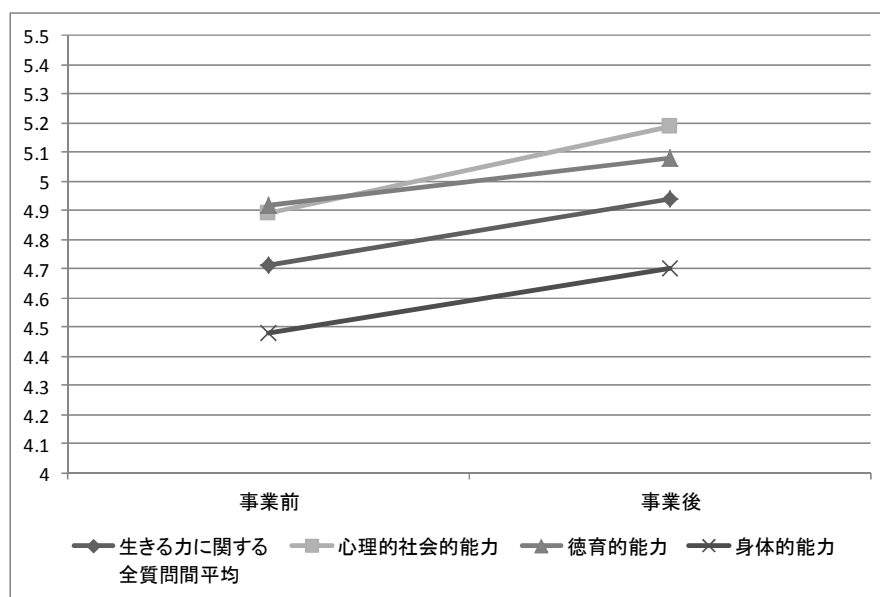


図4 「生きる力」の要素の変化

3. 「リーダーシップ」の要素（18項目）

(1) 国内参加者（スカウト）に対する調査結果

表5と図5は「リーダーシップ」の要素の変化を示したものである。国内参加者（スカウト）は、「想像力」、「規範意識」、「伝達・コミュニケーション」を除く、全ての項目において、統計上有意な差が見られた。実体験を通じた学びとして、表面的な部分で得点変化が大きい印象がある。想像力や役割意識は、より高度な志向次元のように思われる。

表5 「リーダーシップ」の要素の変化

	平均点			t値	p値	有意差
	事業前	事業後	変化			
リーダーシップに関する全質問間平均	4.05	4.17	0.12	5.47	0.000	***
課題達成機能	3.93	4.08	0.15	6.45	0.000	***
意欲・自立性	3.73	3.98	0.25	5.91	0.000	***
危険意識	3.90	4.04	0.14	4.31	0.000	***
計画・判断	3.88	4.00	0.12	3.70	0.000	***
省察・アクション	3.82	4.05	0.23	5.34	0.000	***
情報収集	3.92	4.01	0.09	2.31	0.021	*
想像力	4.32	4.38	0.06	2.09	0.370	
集団維持機能	4.18	4.26	0.08	3.43	0.001	**
役割意識	4.13	4.25	0.12	2.71	0.007	**
規範意識	4.15	4.20	0.05	1.54	0.123	
伝達・コミュニケーション	4.29	4.34	0.05	1.47	0.141	
ユーモア・明るさ	4.11	4.25	0.14	3.99	0.000	***

* 統計的検定を行い、平均値の向上が認められたもの

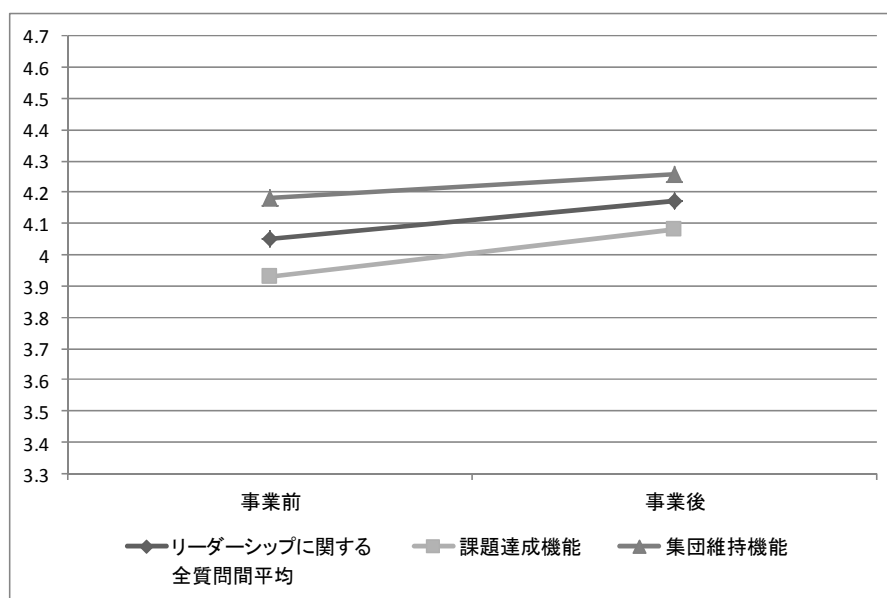


図5 「リーダーシップ」の要素の変化

(2) 外国参加者（スカウト）に対する調査結果

表6と図6は「リーダーシップ」の要素の変化を示したものである。リーダーシップは、外国人に要請されるものは日本人よりも高いものであり、日本版尺度を用いたことによる影響が考えられる。16NJのプログラムは、外国人によって新奇性が高いことが想定でき、想像力をかきたてる要素があったと考えられる。

4. 「自然のすばらしさや共存することの大切さ」の要素（3項目）

(1) 国内参加者（スカウト）に対する調査結果

表7と図7は「自然のすばらしさや共存することの大切さ」の要素の変化を示したものである。調査項目において点数が伸びていることは、事業の成果と考えられる。

表6 「リーダーシップ」の要素の変化

	平均点			t値	p値	有意差
	事業前	事業後	変化			
リーダーシップに関する 全質問間平均	4.97	5.15	0.19	2.43	0.020	*
課題達成機能	4.81	5.08	0.27	3.21	0.002	**
意欲・自立性	4.79	5.15	0.37	4.26	0.000	***
危険意識	4.60	4.99	0.39	3.15	0.003	**
計画・判断	4.89	4.95	0.07	0.54	0.593	
省察・アクション	5.08	5.23	0.16	1.38	0.172	
情報収集	4.73	5.12	0.39	3.60	0.001	**
想像力	4.79	5.21	0.42	4.01	0.000	***
集団維持機能	5.10	5.22	0.12	1.52	0.134	
役割意識	5.03	5.18	0.15	1.83	0.073	
規範意識	5.16	5.22	0.06	0.62	0.536	
伝達・コミュニケーション	5.06	5.29	0.24	2.29	0.026	*
ユーモア・明るさ	5.14	5.26	0.12	1.05	0.297	

* 統計的検定を行い、平均値の向上が認められたもの

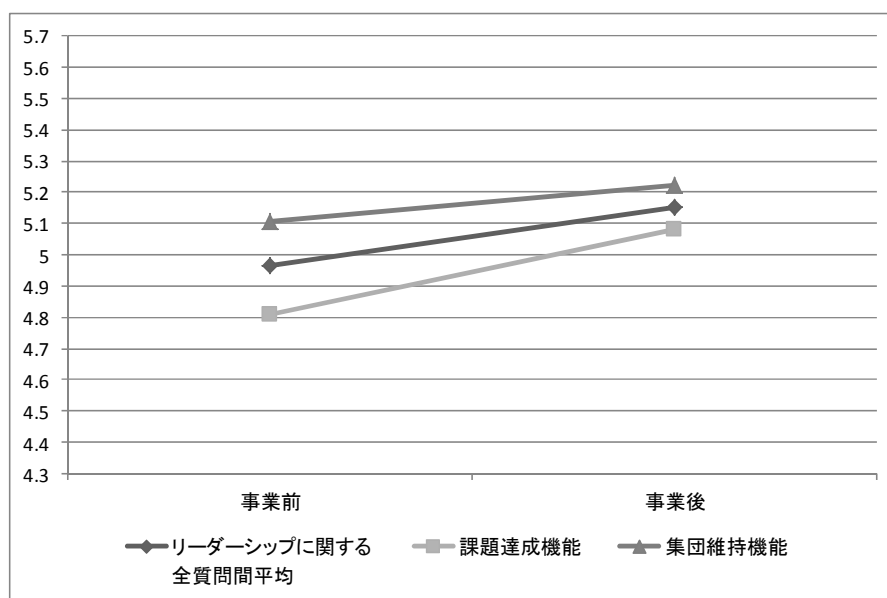


図6 「リーダーシップ」の要素の変化

表7 「自然のすばらしさや共存することの大切さ」の要素の変化

	平均点			t値	p値	有意差
	事業前	事業後	変化			
共存(自然)	4.40	4.61	0.21	6.88	0.000	***

* 統計的検定を行い、平均値の向上が認められたもの

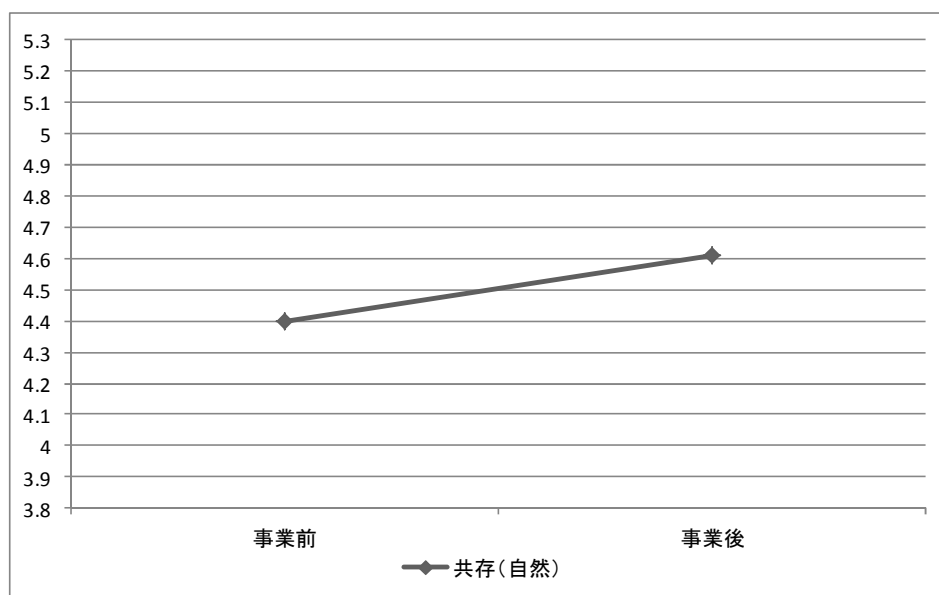


図7 「自然のすばらしさや共存することの大切さ」の要素の変化

(2) 外国参加者（スカウト）に対する調査結果

表8と図8は「自然のすばらしさや共存することの大切さ」の要素の変化を示したものである。有意な差は見られなかった。

表8 「自然のすばらしさや共存することの大切さ」の要素の変化

	平均点			t値	p値	有意差
	事業前	事業後	変化			
共存(自然)	4.99	5.06	0.07	0.68	0.501	

* 統計的検定を行い、平均値の向上が認められたもの

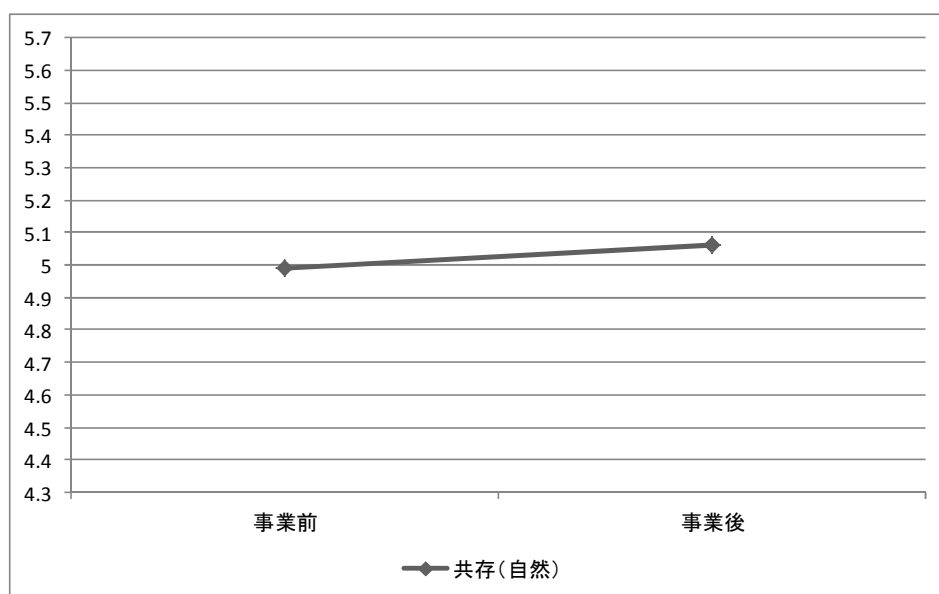


図8 「自然のすばらしさや共存することの大切さ」の要素の変化

5. 自由記述の分析結果（国内参加者のみ）

事前調査において「このジャンボリー参加で期待することは何ですか？（自由記述）」、事後調査において「このジャンボリーであなた自身が得たものは何ですか？（自由記述）」を調査した。自由記述については、テキストマイニングソフト KH Coder⁽³⁾を用いて分析をした。KH Coder とは、新聞記事、質問紙調査における自由回答項目、インタビュー記録など、社会調査によって得られる様々な日本語テキスト型データを計量的に分析するために制作された、内容分析（計量テキスト分析）もしくはテキストマイニングのためのフリーソフトウェアである。

まず、アンケートの中で頻回に出現した上位 100 語を頻出語として、このリストを用いて語句と語句の結びつきを示す 2 種類の共起ネットワークを作成し、事前・事後においての参加者の特徴を導き出した。共起（きょうき）は、ある単語がある文章中に出たとき、その文章中に別の限られた単語が頻繁に出現することである。

この分析により、国内参加者はジャンボリーに参加したことにより、自身の学びや自己の成長につながっていることが明らかになった。

表 9 と表 10 はアンケート内容を特徴づける頻出語上位 100 語のリストである。イタリック体の文字は、事前と事後において抽出された語句 52 語である。

図 9（事前）と図 11（事後）は、出現数の多い語句ほど大きい円で描画され、これを共起ネットワーク（中心性）にするとネットワークの中でそれぞれの語句がどの程度中心的な役割を果たしているかがわかる。すなわち、図の中で円の大きい中心的な語句はアンケート内容を特徴づける語句を結びつけるハブの役割を担っている。

図 10（事前）と図 12（事後）は、比較的強く結びついている部分を自動的に検出してグループ分けを行い、その結果を色分けによって示す「サブグラフ検出」で表したものである。出現パターンが似通った語句、すなわち共起の程度が強い語句を線で結んで、各語句の関連を示しており、出現数の多い語句ほど大きな円で、Jaccard 係数で測定した共起関

表 9 事前アンケートの内容を特徴づける頻出語（上位 100 語）（抽出語数 15,549 語）

抽出語	出現数	抽出語	出現数	抽出語	出現数	抽出語	出現数
交流	411	生活	36	技術	18	食事	11
人	380	他県	36	向上	17	人達	11
外国	303	話す	36	広げる	17	友情	11
友達	237	知る	32	今回	17	良い	11
スカウト	168	地域	30	初めて	17	ご飯	10
たくさん	142	海外	29	増やす	17	前回	10
自分	137	学ぶ	29	様々	17	来る	10
他	95	世界	29	会う	16	絆	10
作る	94	協力	27	持つ	16	チャレンジ	9
仲良く	88	新しい	27	積極	16	高める	9
ジャンボリー	78	期待	26	外人	15	国際	9
楽しい	71	交換	26	頑張る	15	少し	9
楽しむ	67	色々	26	技能	15	多い	9
国	59	他国	25	行動	15	大切	9
キャンプ	57	仲間	25	過ごす	14	班長	9
いろいろ	56	日本	25	違う	13	力	9
プログラム	55	班	25	帰る	13	コミュニケーション	8
深める	53	隊	23	人々	13	ボーイスカウト	8
県	50	今	22	全国	13	海	8
思う	41	長い	22	長期	13	関わる	8
文化	40	体験	21	将来	12	県外	8
成長	38	関係	20	普段	12	行く	8
多く	38	参加	20	1.11111E+26	12	事	8
経験	37	思い出	20	雨	11	時間	8
活動	36	英語	19	楽しみ	11	自身	8

表 10 事後アンケートの内容を特徴づける頻出語（上位 100 語）（抽出語数 13,406 語）

抽出語	出現数	抽出語	出現数	抽出語	出現数	抽出語	出現数
友達	242	コミュニケーション	29	体力	17	暑い	12
人	205	仲良く	28	団結	17	進む	12
大切	151	いろいろ	27	交換	16	耐える	12
交流	136	話す	26	自然	16	知識	12
外国	129	スカウト	25	能力	16	県	11
協力	97	少し	25	感謝	15	仕事	11
仲間	93	国	24	指示	15	出来る	11
自分	92	積極	24	世界	15	色々	11
友情	64	得る	24	精神	15	信頼	11
行動	56	話しかける	24	大変	15	責任	11
英語	55	新しい	23	長期	15	前	11
力	52	文化	23	学ぶ	14	多い	11
楽しい	51	班長	21	多く	14	大雨	11
キャンプ	46	良い	21	家	13	怖い	11
生活	42	考える	20	気持ち	13	友人	11
思う	41	思い出	20	言葉	13	チームワーク	10
経験	40	難しい	20	時間	13	他国	10
絆	39	話せる	20	他県	13	対応	10
班	36	忍耐	19	分かる	13	必要	10
心	33	挨拶	18	勇氣	13	様々	10
ジャンボリー	32	違う	18	友	13	料理	10
他	32	関係	18	あいさつ	12	和	10
たくさん	30	技術	18	リーダーシップ	12	雨	9
自信	30	チーフリング	17	会話	12	家族	9
知る	30	水	17	強い	12	寒い	9

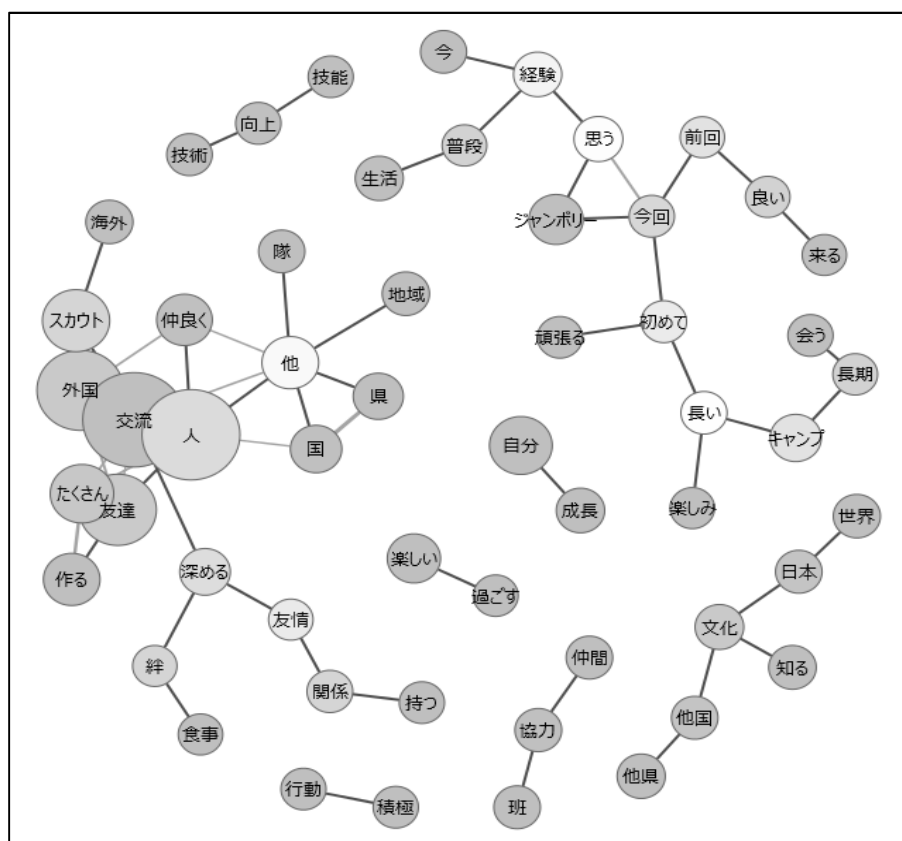


図9 【事前アンケート】共起ネットワーク（中心性）

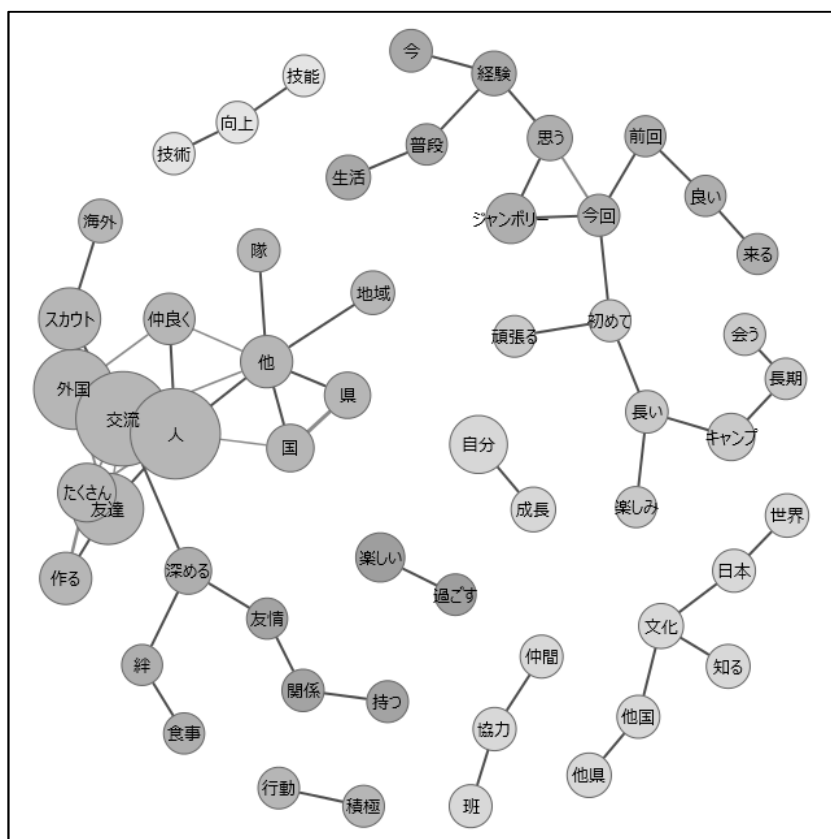


図 10 【事前アンケート】共起ネットワーク（サブグラフ検出）

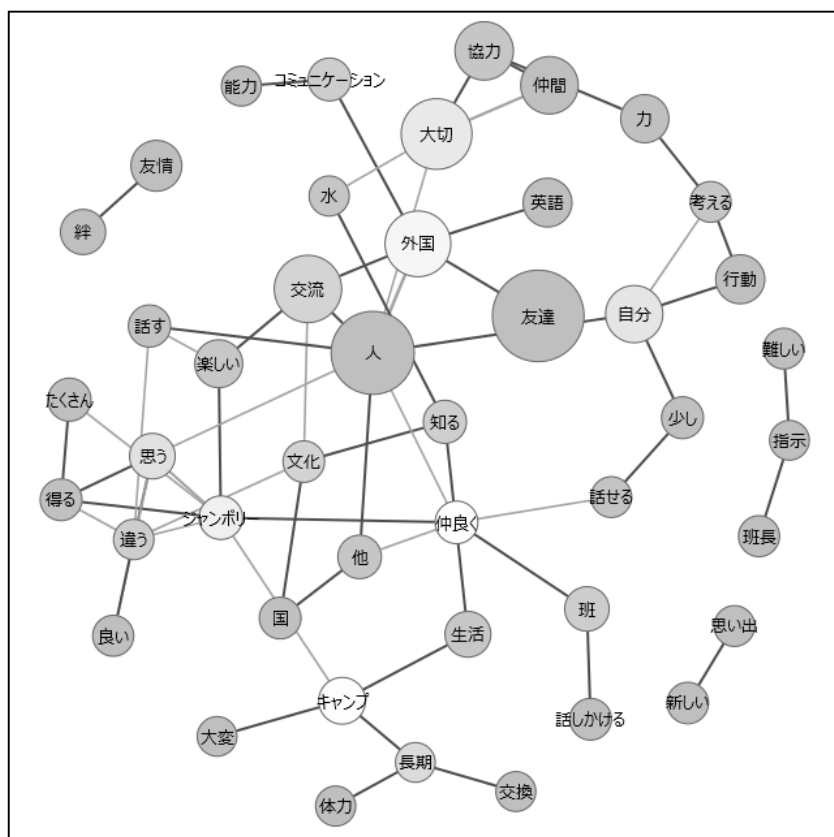


図 11 【事後アンケート】共起ネットワーク（中心性）

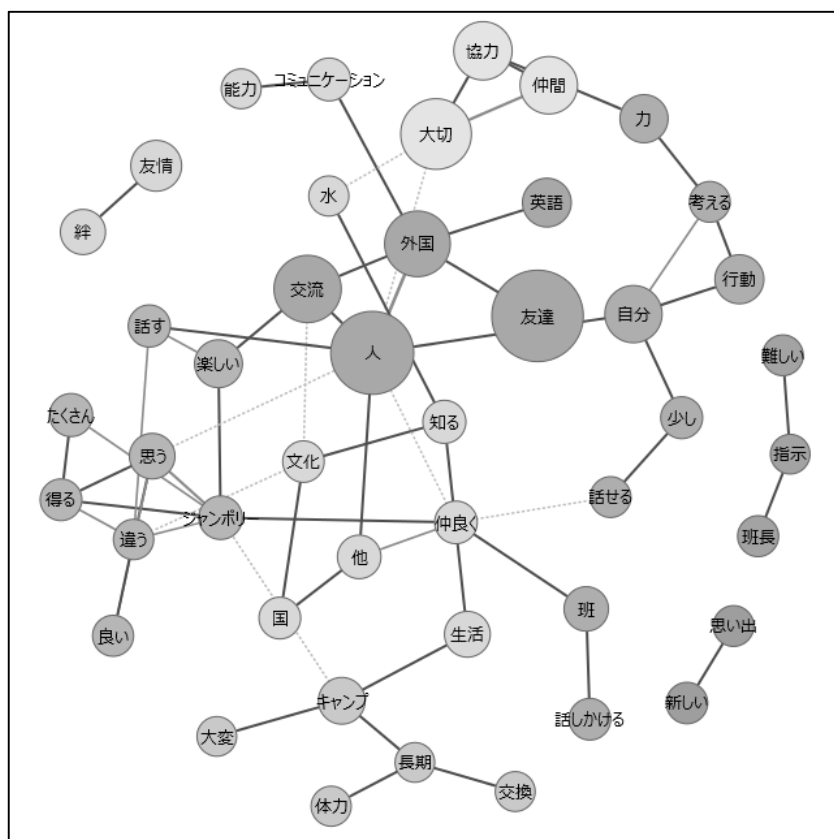


図 12 【事後アンケート】共起ネットワーク（サブグラフ検出）

係が強いほど太い線で描画されている。同じサブグラフに含まれる語句は実線で結ばれ、互いに異なるサブグラフに含まれる語句は破線で結ばれている。

事前期待については、個々がそれぞれ 16NJ に対して持っているイメージや課題は異なっている印象がある。他者との交流の機会を期待する以外は、非日常的経験の機会、何かを得る機会という程度で、参加者は、積極的に何かを学ぶという機会というよりは、自然と何かが身につくような期待があったと推測できる。

事後期待については、交流の中に自分が位置づけられているという解釈ができる。また具体的な交流のイメージが膨らんでいるとも考えられる。

6. 表 11、12 は本調査で用いた 63 項目及びそれらが構成するカテゴリごとに、事前事後で平均値の比較をしたものである。

表 11 国内参加者（スカウト） 全質問項目についての事前事後比較

文部科学省が求める グローバル人材の要素	生きる力の要素	リーダーシップ の要素	事業推進の要素など	No.	質問項目	事前調査		事後調査		t値	p値	有意差
						平均	標準偏差	平均	標準偏差			
要素Ⅰ	①語学力	-	-	1	英語で自己紹介できる	3.84	1.40	4.18	1.32	9.04	0.000	***
		-	-	2	外国の人に英語で話しかけることができる	3.10	1.45	3.95	1.46	18.51	0.000	***
		-	-	3	将来外国の学校に行きたい	2.09	1.34	2.53	1.46	11.73	0.000	***
		-	-	4	将来外国の会社で働きたい	2.05	1.28	2.59	1.46	14.33	0.000	***
要素Ⅱ	②コミュニケーション能力	【心理的社会的能力】 明朗性	-	5	誰にでも話しかけることができる	3.52	1.47	4.00	1.45	10.84	0.000	***
		【心理的社会的能力】 適応行動	-	6	人の話をききんきくことができる	4.24	1.14	4.28	1.10	1.27	0.206	
		【徳育的能力】 思いやり	-	7	人のために何かをしてあげるのが好きだ	4.11	1.23	4.23	1.21	3.26	0.001	**
		【徳育的能力】 思いやり	-	8	人の心の痛みがわかる	3.95	1.17	4.09	1.22	3.77	0.000	***
	①主体性・積極性	【心理的社会的能力】 積極性	-	9	自分から進んで何でもやる	3.74	1.19	3.93	1.18	5.25	0.000	***
		【心理的社会的能力】 積極性	-	10	前向きに、物事を考えられる	3.98	2.22	4.05	1.62	1.01	0.312	
		【心理的社会的能力】 視野・判断	-	11	先を見通して、自分で計画が立てられる	3.53	1.28	3.82	1.82	4.95	0.000	***
		【心理的社会的能力】 非依存	-	12	小さな失敗を恐れない	3.90	2.08	4.01	1.21	1.66	0.097	
	②チャレンジ精神	-	課題達成機能 ⑥想像力	13	上手にくよくよいろいろな工夫をすることができる	3.89	1.13	4.01	1.21	3.15	0.002	**
		-	-	14	新しいことに挑戦したい	4.47	1.26	4.53	1.27	1.65	0.099	
	③協調性・柔軟性	【心理的社会的能力】 交友・協調	-	15	誰とでも仲よくできる	4.24	1.27	4.34	1.24	2.54	0.011	*
		【心理的社会的能力】 適応行動	-	16	その場にあわせて行動ができる	3.98	1.70	4.09	1.16	2.11	0.035	*
		【徳育的能力】 自己規制	-	17	自分勝手な、わがままを言わない	4.12	1.22	4.12	1.27	0.03	0.979	
		【徳育的能力】 まじめ勤勉	-	18	嫌がらずに、よく働く	3.98	1.17	4.10	1.19	3.11	0.002	**
	④責任感・使命感	【徳育的能力】 まじめ勤勉	-	19	自分に割り当てられた仕事は、しっかりとやる	4.45	1.12	4.42	1.16	-0.62	0.537	
		-	集団維持機能 ⑦役割意識	20	自分がするべき役割をはっきりわかっている	4.13	1.18	4.28	2.21	2.05	0.041	*
		-	-	21	交流国の文化（日常生活等）を理解している	3.39	1.58	3.83	1.22	8.29	0.000	***
		-	-	22	交流国の歴史を理解している	3.02	1.26	3.52	1.28	11.31	0.000	***
要素Ⅲ	①異文化理解	-	-	23	初めての環境に自分からなじもうと努力する	4.03	1.38	4.25	1.82	3.48	0.001	***
		-	-	24	日本（自国）の文化（日常生活等）を説明することができる	4.19	1.19	4.30	1.16	2.77	0.006	**
		-	-	25	日本（自国）の歴史を説明することができる	3.75	1.38	3.99	1.30	5.66	0.000	***
		-	-	26	日本（自国）人としての良さを説明できる	3.88	1.29	4.16	1.26	6.95	0.000	***
	②日本人としてのアイデンティティ	-	-	27	花や風景などの美しいものに、感動できる	4.12	1.36	4.41	1.30	7.42	0.000	***
		-	-	28	自然の恵みに感謝できる	4.51	2.32	4.62	1.17	1.50	0.134	
		-	-	29	季節の変化を感じることができる	4.64	1.16	4.79	1.13	3.86	0.000	***
		-	-	30	日本（自国）人として世界に貢献したい	4.11	1.35	4.27	1.34	3.72	0.000	***
	-	-	-	31	外国の人と交流を通して自分の可能性を広げたい	4.12	1.83	4.27	1.34	2.56	0.011	*
	-	-	-	32	交流した外国の人と将来もつながりをもりたい	3.97	1.43	4.14	1.39	3.82	0.000	***
	-	【心理的社会的能力】 非依存	-	33	嫌なことは、嫌とはっきり言える	4.03	1.43	4.28	1.53	4.88	0.000	***
	-	【心理的社会的能力】 明朗性	-	34	失敗しても、立ち直るのが早い	3.92	1.45	4.05	1.39	2.97	0.003	**
	-	【心理的社会的能力】交友・協調	-	35	多くの人に好かれている	3.56	1.61	3.57	1.32	0.26	0.793	
	-	【心理的社会的能力】 現実肯定	-	36	自分のことが大好きである	3.41	1.49	3.55	1.53	3.23	0.001	**
	-	【心理的社会的能力】 現実肯定	-	37	誰にでも、あいさつできる	4.75	2.34	4.62	1.60	-1.60	0.110	
	-	【心理的社会的能力】 視野・判断	-	38	自分で問題点や課題を見つづけることができる	4.04	1.29	4.12	1.25	1.81	0.071	
	-	【徳育的能力】 自己規制	-	39	お金やモノの無駄使いをしない	4.08	1.43	4.19	1.41	2.41	0.016	*
	-	【身体】 自発的行動	-	40	早寝早起きである	3.48	2.25	3.68	1.51	2.66	0.008	**
	-	【身体】 日常的行動	-	41	からだを動かしても、疲れない	3.60	1.49	3.77	1.50	3.86	0.000	***
	-	【身体】 身体的耐性	-	42	暑さや寒さに、負けない	3.74	1.47	3.83	1.45	2.08	0.038	*
	-	【身体】 身体的耐性	-	43	とても痛いケガをしても、我慢できる	3.79	1.46	3.89	1.48	2.31	0.021	*
	-	【身体】野外技能・生活	-	44	ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える	3.92	1.32	4.23	1.28	7.55	0.000	***
	-	【身体】野外技能・生活	-	45	洗濯機がなくても、手で洗濯できる	4.25	1.33	4.65	1.24	9.78	0.000	***
	-	-	課題達成機能 ①意欲・自立性	46	人が嫌がることでも自分から進んで取り組むことができる	3.80	1.59	4.03	1.27	4.47	0.000	***
	-	-	-	47	進んでお手伝いや勉強をすることができる	3.66	1.87	3.93	1.31	4.86	0.000	***
	-	-	課題達成機能 ②危険意識	48	危ないことを予測して避けることができる	3.86	1.21	4.00	1.18	3.51	0.000	***
	-	-	-	49	その場の状況にあわせて考えることができる	3.95	1.13	4.08	1.14	3.63	0.000	***
	-	-	課題達成機能 ③計画・判断	50	決めた時間にあわせて行動することができる	3.95	1.35	4.04	1.19	1.83	0.067	
	-	-	-	51	先のことを考えて行動することができる	3.80	1.19	3.97	1.18	4.56	0.000	***
	-	-	課題達成機能 ④省察・アクション	52	内容を考えて話すことができる	3.79	1.33	4.04	1.72	4.29	0.000	***
	-	-	-	53	反省したことを次の行動や活動に生かしている	3.86	1.13	4.06	1.66	3.94	0.000	***
	-	-	課題達成機能 ⑤情報収集	54	物事をいろいろな方向から見るることができる	3.84	1.17	3.96	1.15	3.18	0.001	**
	-	-	-	55	わからないことは自分で調べるることができる	4.00	1.87	4.06	1.24	1.04	0.297	
	-	-	課題達成機能 ⑥想像力	56	興味のあることにチャレンジしてみたい	4.73	1.22	4.75	1.21	0.38	0.704	
	-	-	集団維持機能 ⑦役割意識	57	全体の目標にあわせて活動に取り組んでいる	4.14	1.12	4.22	1.15	2.18	0.029	*
	-	-	集団維持機能 ⑧規範意識	58	ルールや約束を必ず守ることができる	4.16	1.20	4.19	1.17	0.77	0.440	
	-	-	-	59	親や先生に言われなくても規則に従うことができる	4.14	1.23	4.21	1.19	1.75	0.080	
	-	-	集団維持機能 ⑨伝達・コミュニケーション	60	困っている友だちがいたら助まることができる	4.35	1.24	4.38	1.19	0.70	0.487	
	-	-	-	61	友だちの立場に立って話を聞くことができる	4.23	1.19	4.30	1.23	1.92	0.055	
	-	-	集団維持機能 ⑩ユーモア・明るさ	62	明るく元気にあいさつや返事ができる	4.43	1.32	4.55	1.28	2.79	0.005	**
	-	-	-	63	場を和ませることができる	3.78	1.36	3.95	1.35	3.95	0.000	***

*統計的検定を行い、平均値の向上が認められたもの

表 12 外国参加者（スカウト） 全質問項目についての事前事後比較

文部科学省が求める グローバル人材の要素	生きる力の要素	リーダーシップ の要素	事業運営の要素など	No.	質問項目	事前調査		事後調査		t値	p値	有意差
						平均	標準偏差	平均	標準偏差			
要素Ⅰ	①語学力	-	-	1	英語で自己紹介できる	5.07	1.18	5.16	1.11	0.90	0.374	
		-	-	2	外国の人に英語で話しかけることができる	4.21	1.70	4.77	1.32	3.91	0.000	***
		-	-	3	将来外国の学校に行きたい	4.84	1.53	5.29	0.99	2.59	0.012	*
		-	-	4	将来外国の会社で働きたい	4.77	1.46	5.19	1.04	2.77	0.008	**
	②コミュニケーション能力	【心理的社会的能力】 明朗性	-	5	誰にでも話しかけることができる	4.54	1.43	4.91	1.21	2.40	0.020	*
		【心理的社会的能力】 適応行動	-	6	人の話をきちんと聞くことができる	4.52	1.34	5.07	1.06	3.34	0.001	**
		【徳育的能力】 思いやり	-	7	人のために何かをしてあげるのが好きだ	4.91	1.19	4.96	1.09	0.54	0.595	
		【徳育的能力】 思いやり	-	8	人の心の痛みがわかる	4.74	1.32	4.95	1.01	1.35	0.182	
		【心理的社会的能力】 積極性	-	9	自分から進んで何でもやる	5.09	1.05	5.33	0.85	1.88	0.066	
		【心理的社会的能力】 積極性	-	10	前向きに、物事を考えられる	5.31	0.86	5.33	0.93	0.15	0.877	
要素Ⅱ	①主体性・積極性	【心理的社会的能力】 積極性	-	11	先を見通して、自分で計画が立てられる	4.91	1.33	5.23	0.76	1.84	0.071	
		【心理的社会的能力】 非依存	-	12	小さな失敗を恐れない	4.33	1.36	4.80	1.19	2.35	0.023	*
		-	課題達成機能 ⑥想像力	13	上手にいくようにいろいろな工夫をすることができる	4.55	1.26	5.04	0.81	3.29	0.002	**
		-	-	14	新しいことに挑戦したい	5.13	1.06	5.16	1.03	0.21	0.832	
	②チャレンジ精神	【心理的社会的能力】 交友・協調	-	15	誰とでも仲よくできる	5.00	1.24	5.24	0.89	1.32	0.194	
		【心理的社会的能力】 適応行動	-	16	その場にあわせて行動ができる	4.85	0.99	4.98	0.81	0.85	0.397	
		【徳育的能力】 自己規制	-	17	自分勝手な、わがままを言わない	5.04	1.11	5.11	1.03	0.42	0.674	
		【徳育的能力】 まじめ動機	-	18	嫌がらずに、よく働く	4.92	1.00	5.14	0.80	1.67	0.102	
	③協調性・柔軟性	-	-	19	自分に割り当てられた仕事は、しっかりやる	5.43	0.83	5.48	0.79	0.54	0.595	
		-	集団維持機能 ⑦役割意識	20	自分がするべき役割をはっきりわかっている	5.25	0.84	5.38	0.78	1.10	0.278	
		-	-	21	交流国の文化（日常生活等）を理解している	4.22	1.44	5.11	0.85	5.45	0.000	***
		-	-	22	交流国の歴史を理解している	3.91	1.50	4.80	1.07	5.09	0.000	***
要素Ⅲ	①異文化理解	-	-	23	初めての環境に自分からなにもうと努力する	5.04	0.94	5.18	0.96	1.34	0.185	
		-	-	24	日本（自国）の文化（日常生活等）を説明することができる	5.20	1.03	5.47	0.77	2.59	0.012	*
		-	-	25	日本（自国）の歴史を説明することができる	5.13	1.11	5.46	0.79	2.89	0.006	**
		-	-	26	日本（自国）人としての良さを説明できる	5.45	0.76	5.61	0.78	1.42	0.162	
	②日本人としてのアイデンティティ	【徳育的能力】 自然への関心	-	27	花や風景などの美しいものに、感動できる	4.89	1.11	4.95	1.21	0.33	0.739	
		-	-	28	自然の恵みに感謝できる	5.27	0.86	5.20	1.00	-0.70	0.484	
		【徳育的能力】 自然への関心	-	29	季節の変化を感じることができる	4.86	1.09	5.09	0.91	1.61	0.113	
		-	-	30	日本（自国）人として世界に貢献したい	5.25	0.91	5.36	0.99	0.88	0.381	
	③責任感・使命感	-	-	31	外国の人と交流を通して自分の可能性を広げたい	5.26	1.03	5.35	0.97	0.68	0.497	
		-	-	32	交流した外国の人と将来もつながりをもちたい	5.38	0.87	5.55	0.97	1.53	0.133	
		【心理的社会的能力】 非依存	-	33	嫌なことは、嫌とはっきり言える	4.90	1.42	5.17	1.024	1.35	0.185	
		【心理的社会的能力】 明朗性	-	34	失敗しても、立ち直るのが早い	4.67	1.10	4.96	1.03	1.58	0.121	
	④責任感・使命感	【心理的社会的能力】 交友・協調	-	35	多くの人に好かれている	4.98	1.12	5.25	0.85	2.24	0.029	*
		【心理的社会的能力】 現実肯定	-	36	自分のことが大好きである	5.66	0.73	5.47	0.85	1.35	0.184	
		【心理的社会的能力】 現実肯定	-	37	誰にでも、あいさつできる	5.63	0.59	5.74	0.81	1.03	0.308	
		【心理的社会的能力】 視野・判断	-	38	自分で問題点や課題を見つけることができる	4.67	1.26	5.12	0.78	2.88	0.006	**
	⑤責任感・使命感	【徳育的能力】 自己規制	-	39	お金やモノの無駄使いをしない	4.80	1.17	5.11	0.95	1.82	0.074	
		【身体】 自発的行動	-	40	早寝早起きである	4.49	1.14	4.67	1.26	1.02	0.312	
		【身体】 自発的行動	-	41	からだを動かしても、疲れない	4.33	1.35	4.85	0.87	3.90	0.000	***
		【身体】 身体的耐性	-	42	暑さや寒さに、負けない	4.27	1.23	4.54	1.45	1.19	0.241	
	⑥責任感・使命感	【身体】 身体的耐性	-	43	とても痛いケガをしても、我慢できる	4.50	1.25	4.70	1.08	1.26	0.213	
		【身体】 身体的耐性	-	44	ナイフ・包丁などの刃物を、上手に使える	4.07	1.51	4.52	1.47	2.35	0.022	*
		【身体】 身体的耐性	-	45	洗濯機がなくても、手で洗濯できる	5.05	1.09	5.18	1.07	0.71	0.482	
		【身体】 身体的耐性	-	46	人が嫌がることでも自分から進んで取り組むことができる	4.32	1.38	4.88	0.94	4.04	0.000	***
	⑦責任感・使命感	-	課題達成機能 ①意欲・自立性	47	進んでお手伝いや勉強をすることができる	5.23	0.89	5.40	0.84	1.52	0.133	
		-	-	48	危ないことを予測して避けることができる	4.73	1.04	4.98	0.97	1.59	0.118	
		-	課題達成機能 ②危険意識	49	その場の状況にあわせて考えることができる	4.50	1.23	5.03	0.84	3.56	0.001	***
		-	-	50	決めた時間にあわせて行動することができる	4.76	1.07	4.89	0.83	0.94	0.350	
	⑧責任感・使命感	-	課題達成機能 ③計画・判断	51	先のことを考えて行動することができる	5.00	1.11	5.05	1.08	0.36	0.721	
		-	-	52	内容を考えて話すことができる	4.97	1.09	5.12	1.06	1.01	0.315	
		-	課題達成機能 ④省察・アクション	53	反省したことを次の行動や活動に生かしている	5.19	0.93	5.34	1.00	1.27	0.210	
		-	-	54	物事をいろいろな方向から見るることができる	4.95	1.02	5.07	0.93	0.85	0.397	
	⑨責任感・使命感	-	課題達成機能 ⑤情報収集	55	わからないことは自分で調べることができる	4.50	1.23	5.17	0.80	4.46	0.000	***
		-	-	56	興味のあることにチャレンジしてみたい	5.00	1.15	5.35	0.88	2.42	0.019	*
		-	課題達成機能 ⑥想像力	57	全体の目標にあわせて活動に取り組んでいる	4.77	0.93	4.98	0.84	2.06	0.044	*
		-	集団維持機能 ⑦役割意識	58	ルールや約束を必ず守ることができる	5.26	0.97	5.33	0.78	0.60	0.551	
	⑩責任感・使命感	-	集団維持機能 ⑧規範意識	59	親や先生に言われなくても規則に従うことができる	5.05	0.97	5.11	0.98	0.38	0.704	
		-	-	60	困っている友だちがいたら助ますことができる	5.07	1.02	5.29	0.83	1.69	0.096	
		-	集団維持機能 ⑨伝達・コミュニケーション	61	友だちの立場に立って話を聞くことができる	5.04	1.04	5.29	0.92	1.78	0.080	
		-	-	62	明るく元気にあいさつや返事ができる	5.20	0.88	5.25	0.94	0.42	0.678	
	⑪責任感・使命感	-	集団維持機能 ⑩ユーモア・明るさ	63	場を和ますことができる	5.11	1.05	5.26	0.92	1.14	0.260	

*統計的検定を行い、平均値の向上が認められたもの

V. 考察

本調査において、16NJの成果の一部を、一定の尺度（ものさし）を用いて定量的に事業全体の成果を示すことができたと考える。

1. 16NJ参加を通じて、野外での「8泊9日間のキャンプ生活（集団野外生活）」を体験する中で、語学の必要性を実感し、言語や文化の違いから異文化を理解し、主体的に個々の課題に取り組んでいる様子などが明らかとなった。自由記述の分析において、特に外国人の生活の違い、食生活の違い、優しさなどを直接認識し、語学力やコミュニケーション力の必要性を実感している記述も多いことから、ジャンボリーへの参加が異文化理解を深め、更にはグローバルな人材育成の契機になっていることが明らかとなった。しかし、日本人と外国人での違いを述べるには、2要因分散分析（1要因のみ対応あり）での検定をすべきであると考ええる。
2. 「伝えることの大切さ」（コミュニケーション）など現代社会における青少年の苦手な一面も明らかになった。また自由記述においても事前事後においてコミュニケーションの重要性を参加者自ら実感している。このことは、小集団（パトロール）で生活を共にするボーイスカウト教育の一つの成果であり、パトロールシステム（班制度）の機能により、リーダーシップを育んだ成果の一つとも考えることができる。
3. それぞれの尺度において、統計上一定の有意差を得ることができたが、自分を顧みてその良し悪しを考える力（規範意識など）が不足している結果も明らかになったことから、今後のスカウト教育の検討材料となった。
4. 本事業では、国内参加者調査と外国参加者調査を同一の日本人をベースとした質問項目で実施したが、外国参加者については文化の違い（例えば、「嫌いなことは、嫌とはっきり言える」とか）があることから、質問項目の精査が今後必要であるということも明らかとなった。
5. 日常のボーイスカウト活動の成果を、いくつかのものさしを当てて客観的に評価することにより、曖昧な身体感覚を一定の基準によって数値化し、多くの人がその感覚を共有することができ、青少年にとってジャンボリーの教育的意義とその必要性を再認識する機会となった。

VI. おわりに

本研究の先行研究となった「第22回世界スカウトジャンボリー（22WSJ）調査報告書—国際的な集団野外生活が青少年に与える影響—」⁽²⁾と本研究との結果には多くの類似が見られた。質的分析による文脈に沿った解釈と量的分析による参加者自身への効果についてより深く捉えることができたと考える。しかし、テキストマイニングソフトKH coderを用いた分析では、今後更にデータを収集するとともに、コーディング規則を作成し、探索的に分析することが必要である。

加えて、先行研究や本研究では事業の事前事後の調査に留まっているが、事業3か月後や1年後の調査も含めて考える必要があると認識している。

2013年夏は歴史上稀に見る異常気象の影響により、野外で生活をするだけでも精一杯の状況であった。そのような環境の中で、質問紙調査を実施したことから、大規模な事業における調査の難しさがあった。今後、更なる調査研究体制の確立をし、普段のボーイスカウト活動を含めた教育的意義やその必要性を定量的に把握できる仕組みづくりの必要性を再認識できたと考える。

引用文献、参考文献、注

- (1) 文部科学省中央教育審議会、「今後の青少年の体験活動の推進について」（答申）、2013年1月21日
- (2) 中野充・島貫織江、「第22回世界スカウトジャンボリー（22WSJ）調査報告書－国際的な集団野外生活が青少年に与える影響－」、国立青少年教育振興機構調査研究報告書、2012年3月10日
- (3) 樋口耕一、KH Coder、<http://khc.sourceforge.net/>、2014年3月1日参照